

熊本県主催

令和7年度(2025年度)第37回

くまもと景観賞 募集



第36回 くまもと景観賞

喫茶竹の熊



第36回 部門賞 地域景観賞

南阿蘇鉄道高森駅・交流施設



第36回 部門賞 地域景観賞

下町橋



第36回 部門賞 緑と水の景観賞

瀬田地区の冬期湛水水田

募集期間：令和7年6月23日(月)～8月22日(金)

募集要項など詳しくは県のホームページをご覧ください。

くまもと景観賞

検索



問い合わせ先:

熊本県土木部道路都市局

都市計画課 景観管理班

TEL 096-333-2522

MAIL toshikeikaku@pref.kumamoto.lg.jp

【主催】熊本県

【後援】(公社)熊本県建築士会、(一社)熊本県建設業協会、(一社)熊本県建築士事務所協会、(公社)熊本県緑化推進委員会、(一社)熊本県造園建設業協会、熊本県樹芸農業協同組合、熊本県花き園芸農業協同組合、熊本県広告美術協同組合、熊本日日新聞社、NHK熊本放送局、熊本放送、テレビ熊本、熊本県民テレビ、熊本朝日放送、エフエム熊本、くまもと緑・景観協働機構

第37回くまもと景観賞

景観は眼にうつる環境とも言われています。緑にあふれ、地域の文化や伝統を感じさせる美しい街並み景観や田園景観は訪れる人の共感を誘うとともに、そこに住む人にも我が町・ふるさとへの愛着をますます高めます。

“くまもと景観賞”は、私たちの郷土＝熊本が緑と潤いに満ちた美しい県土となるよう、良好な景観形成に大きく貢献している人々の功績を広く顕彰することを目的としています。

募集要項

1 表彰の対象

熊本県内において、次に掲げる景観形成に係る取組みで、地域の良好な景観形成に大きく貢献している個人若しくは団体を表彰します。

- ① 地域の歴史、生活文化、自然などを活用した景観
- ② 地域住民、企業、行政それぞれの参加と協力で創出された景観
- ③ 地域に潤いと安らぎを与える景観
- ④ 地域に新たな魅力をもたらす景観
- ⑤ その他優れた景観形成に寄与しているもの

※ 構造物を含める応募の場合は、原則として「竣工済み」のものに限ります。

※ 過去にこの表彰に応募したものの応募も受け付けます。(ただし、受賞者は除く)

※ 応募内容が関係法令等に違反しているもの、その他表彰にふさわしくない事項等と認められるものについては、選考対象外とします。また、表彰決定後に表彰にふさわしくない事項等があったことが判明したときは、当該決定を取り消す場合があります。

2 応募資格

自薦、他薦は問いません。(他薦の場合、被推薦者の承認を得たうえで応募してください。)

3 応募方法

応募用紙に必要事項を記入し、画像データを添えて、熊本県土木部都市計画課まで提出してください。

※ 応募用紙は、熊本県ホームページからダウンロードしてください。

※ 電子申請システム(LoGoフォーム)での応募も可能です。

※ 応募いただいた書類の返却は行いませんので、あらかじめご了承ください。

くまもと景観賞

検索



<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/103/175886.html>

<提出先・問い合わせ先>

熊本県土木部道路都市局 都市計画課景観管理班

〒862-8570 熊本市中央区水前寺六丁目 18-1

TEL:096-333-2522

4 募集期間

令和7年(2025年)6月23日(月)～8月22日(金)

5 選考方法

くまもと景観賞審査委員会を設け審査します。

一次審査 書類審査

二次審査 現地審査

■審査委員長

星野 裕司

熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 教授

■審査委員

太田 リカ

空間デザイナー・グラフィックデザイナー

丸山 幸

株式会社 大揮環境計画事務所 代表取締役

金子 好雄

熊本県文化懇話会会員、NPO法人白川流域リバーネットワーク 代表理事

磯田 淳

株式会社くまもとDMC 代表取締役社長

吉武 隆一

熊本大学大学院先端科学研究部土木建築部門人間環境計画分野 准教授

6 発表・表彰

表彰式は、令和8年(2026年)2月頃を予定しています。

※ 応募された方には、12月末までに結果を通知します。

くまもと景観賞は、グランプリである「くまもと景観賞」をはじめ、次の賞を設けています。

審査にあたっては、個々の景観だけでなく、地域景観づくりの活動も評価します。

■くまもと景観賞

県土の景観形成に顕著な功績のあるものに贈られます。

■部門賞

【地域景観賞】

地域の景観形成に功績のあるものに贈られます。

（ 個々の建築物、向こう三軒両隣といった小さな単位から、
まちづくり等の大きな単位まで優れた景観形成や地域づくりに寄与しているもの ）

【緑と水の景観賞】

緑と水の景観形成に功績のあるものに贈られます。

（ 住民・企業・行政の協働による緑化活動、私有地の公共空間化により創出された、
ゆとりある景観等で、継続的な維持管理によって良好に保たれているもの ）

【広告景観賞】

広告景観の向上に功績のあるもの(広告・サイン・案内板等)に贈られます。

（ 広告単体の造形美や、統一的なデザインの看板の設置等によって、
優れた景観形成に寄与しているもの ）

■奨励賞

景観の形成や向上に貢献しているものに贈られます。

■特別賞

過去の受賞作品を含めて、長年にわたり良好な景観の維持・向上が図られ、県土の景観形成に特に顕著な功績があるものなど、審査委員の推薦で、特別賞を贈る場合があります。

— 第36回くまもと景観賞受賞作品 —



くまもと景観賞 喫茶竹の熊

2023年、南小国町に誕生した「喫茶竹の熊」は、地域の湧水を取入れた「水庭」に張り出した開放的な建築が特徴で、美しい里山に囲まれた田園風景を享受できる視点場となっている。代々受け継がれた自然景観や林業、地域の繋がりから生まれた造形美は、訪れる人を魅了する。

建築の際には多くの地域の手が携わり、また、眼下に広がる田畑では地域の子供たちと田植えや稲刈りが行われ、11月の新嘗祭では神楽が奉納されるなど、地域交流の場としても機能している。

持続可能な林業の課題に向き合いつつ、美しい景観と地域の活力を創造する取組みは、地域の未来に希望を与えるものとして高く評価される。

受賞者の声

受賞後、県内外から建築やデザインに関心のある方々の来訪が増えました。「空間の価値が認められた」と感じてくださるお客様の声も多く、スタッフの励みにもなっています。

今後は、喫茶としての営みに加え、地域の文化や素材を伝える拠点として、宿や展示など多面的な活用を進めていきたいと考えています。



部門賞 地域景観賞 南阿蘇鉄道高森駅・交流施設

高森駅は熊本地震で被災。

「定住」「観光」「防災」による地域づくりの最重要拠点として2024年7月に建て替え整備された。

施設正面には160メートルの長いプラットホームと芝生広場、その先には南郷谷の雄大な山々と田畑が織りなす田園風景が広がっている。

駅としての機能を超え、訪れる人々と地域が豊かな風景の中で繋がり化学変化を起こす、地域にかけがえのない場所となっていくであろう。



部門賞 地域景観賞 下町橋

明治39年、湯前町の地元住民によって架けられた石造アーチ橋。令和2年7月豪雨などによる影響で、ついに使用に耐えなくなったが、人々はコンクリート橋への架替えではなく、あえて石橋での再建を選んだ。

番付に基づき元の石材を再利用し、ガードレールだった欄干は古写真から石造高欄として復元された。

川辺からの眺めは風刺漫画家・那須良輔の記憶につながっているに違いない。周辺の整備を続けることで、さらに魅力的なふるさとの景観になっていくだろう。



部門賞 緑と水の景観賞 瀬田地区の冬期湛水水田

浸透能が高い白川中流域における冬期湛水水田による地下水かん養事業。

加藤清正が構想した上井手から白川の水が 7.7ha の田んぼに導かれ、約 150 万 m^3 が真冬の水田から地下に浸透する。

雄大な阿蘇の山容を背景に、阿蘇外輪山の切り欠き部である立野峡谷の出口にあたるこの地区では、白川の流が緩やかになり、右に大きく蛇行し、美しい流路曲線を描く。冬期湛水した一帯の水田は、田植時とは異質で不思議な景観を形成し、熊本地域により豊かな地下水をもたらしている。

瀬田地区水田湛水協議会の皆様の真摯な取り組みに感謝したい。



奨励賞 青海保育園

宇城市三角町郡浦の高台に位置し、海も山も眺めることができる長閑な立地。眼下には近隣集落の屋根が目飛び込み、お互いを意識する距離感である。

この地域の景観に調和しつつ、牽引性を持たせながら施設全体を溶け込ませ、近隣の視認への配慮まで計画されている点は、実に素晴らしい。ほか、地域の大工による伝統的工法の継承、園児との看板製作、地域住民が利用可能となる空間づくりなど、様々な工夫が施してある。